

復習～文法は、意味、形、働き(どんなときに使うか)の3つを押さえる

- 英文法は、全部で5段階からなっています。
 1. ○(主語)+□(動詞)+ピリオド
 2. □の操作(助動詞及び動詞の否定語に波線)
 3. ▽(準動詞)及び△(その意味上の主語)
 4. 複数の○□の接続
 5. より高度な表現
- 英文法の第1段階～動詞には **be 動詞**と一般動詞があるので注意しましょう。
- 英文法の第2段階には、4つの方法(文の種類、時制、助動詞、態)があります。これらは、自在に組み合わせて更に細かいニュアンスを出すこともできます。

第3段階の全体像

1. 準動詞

- (ア) 動詞が変化して、センテンスの中で動詞以外(名詞、形容詞、副詞)の役割を担うものを、準動詞(分詞)といいます。
- (イ) 準動詞はもともと動詞なので、必ず「動作主」が必要です。そこで、準動詞を▽□(□の変化形なので)、その動作主を△でマーキングします。
- (ウ) 準動詞を使うと、「ひとつのセンテンスに○と□は一つずつ」という英文法の第一段階のルールを守りながら、より複雑なことを言えるようになります。つまり、準動詞の基本形は、○□△▽であるということです。(これを徹底的に頭に入れてください)
- (エ) 準動詞は四種類あり、これらは時制によって「形」が異なります。逆に言えば、時制以外はみんな同じです。(この段階では、それだけおぼえておけばOKです)

3-1～準動詞①「未来分詞」

1. 未来分詞

- (ア) 意味: これからする動作(まだしていない動作)を表す。
- (イ) 形: to+動詞の原形(否定語 not の挿入は、to の前後どちらもある)
- (ウ) 働き(使い方)
 ※全用法とも、「①△の明示が原則、②○と△(センテンスの主語と準動詞の動作主)が一致している場合は△を省く」というルールが適用される点で同一です。

① 形容詞的用法

1. (○□△▽) I want you to eat. (私はあなたが食べるのを欲する→私はあなたに食べてほしい)～これが全ての分詞の基本形
2. (すぐ前の名詞の修飾) I want something to eat. (私は欲しい、何か食べるものを)
 ※注意! 「食べる(to eat)」の動作主は I なので△▽ではない。
3. (疑問詞+未来分詞) I don't know what to do. (私には分からない、何をすればいいか)

② 名詞的用法～名詞は、文の主語、目的語、補語の三つになれます。(だから、必ずこれら三つを全て確認します)

1. (分詞=文の目的語) I want to eat. (私は食べることを欲する→私は食べたい)
2. (分詞=文の補語) The important thing is to be honest. (重要なのは正直でいることだ)
3. (分詞=文の主語) It's hard for me to say no to you. (難しいです、私があなたにノーというのは)

(ア) この it を「仮主語」といいます。(後で詳しく学びます)

(イ) このパターンでは、動作主の前に for もしくは of が来るのが一般的です。

① It's kind of you to help me with the homework. (親切ですね、あなたは、宿題を手伝ってくれるなんて)

③ 副詞的用法

1. (分詞=目的) I went to the convenience store to buy some milk. (私はそのコンビニに行った、ミルクを買いに)
2. (分詞=結果) He grew up to be a doctor. (彼は成長し、医者になった)
3. (分詞=感情の原因や判断の根拠) I'm glad to see you again. (うれしいです、あなたに再び会えて)
4. (分詞=すぐ前の形容詞・副詞の修飾) The machine is safe to touch. (その機械は触っても安全だ)
5. (enough) He is old enough to handle it by himself. (彼は大人だ、それに自分ひとりで対処するのに十分なほど)
6. (too~to) I'm too tired to go out. (私は疲れ過ぎて、外出できない)
7. (独立不定詞) ※独立不定詞は、頻出のものを成句としておぼえれば十分です。(高校レベル)
 to tell you the truth (本当のことを言うと), to be honest (正直に言う) …など

【復習】～文法は、意味、形、働き(どんなときに使うか)の3つを押さえる

- 英文法は、全部で5段階からなっています。
 1. ○(主語)+□(動詞)+ピリオド
 2. □の操作(助動詞及び動詞の否定語に波線)
 3. ▽(準動詞)及び△(その意味上の主語)
 4. 複数の○□の接続
 5. より高度な表現
- 英文法の第1段階～動詞には **be** 動詞と一般動詞があるので注意しましょう。
- 英文法の第2段階には、4つの方法があります。これらは、自在に組み合わせることで更に細かいニュアンスを出すこともできます。
 1. 文の種類: 平叙文(肯定文と否定文)、疑問文、命令文。(※be 動詞と一般動詞で、文の種類のかえ方が異なるので注意しましょう)
 2. 時制: 単純時制(現在形、過去形、未来形)と複合時制(進行形、完了形)があります。
 3. 助動詞: 助動詞とは、動詞の雰囲気より具体的に定める「動詞のパートナー」です。
 4. 態(能動態と受動態): 動詞の動作が主語から目的語に及ぶものを「能動態」、主語が動詞の動作の対象となるものを「受動態」といいます。
- 英文法の第3段階には、時制によって4種類があります。「△(動作主)が▽ (準動詞)する」という基本を押さえましょう。
 1. 未来分詞(△がこれから▽する) ※学校の「to 不定詞
 2. 現在分詞(△が▽している)
 3. 過去分詞(△が▽してしまった/された)
 4. 事実分詞(△が▽する) ※学校の「原形不定詞」

3-2～準動詞②「現在分詞」

1. 【復習】準動詞
 - (ア) 動詞が変化して、センテンスの中で動詞以外(名詞、形容詞、副詞)の役割を担うものを、準動詞(分詞)といいます。
 - (イ) 準動詞はもともと動詞なので、必ず「動作主」が必要です。そこで、準動詞を▽ (□の変化形なので)、その動作主を△でマーキングします。
 - (ウ) 準動詞を使うと、「ひとつのセンテンスに○と□は一つずつ」という英文法の第一段階のルールを守りながら、より複雑なことを言えるようになります。つまり、準動詞の基本形は、○□△▽であるということです。(これを徹底的に頭に入れてください)
 - (エ) 準動詞は四種類あり、これらは時制によって「形」が異なります。逆に言えば、時制以外はみんな同じです。
2. 現在分詞
 - (ア) 意味: (1)今の瞬間(もしくは「その瞬間」)にしている動作を表す。(2)一般的な動作(～すること)を表す。
 - ① 現在分詞と名詞との関係(2種類あるので注意が必要です)

sleeping pill 眠るための薬(名詞の目的) sleeping baby 眠っている赤ん坊(名詞が主語となる行為)
 - (イ) 形: 動詞の原形+語尾 ing (注意すべきものの例に、getting, coming など。また、否定語 not の挿入は、現在分詞の前に)
 - (ウ) 働き(使い方) ～学校文法では **ing** を「現在分詞」と「動名詞」に分けますが、本校では、これら全てをひとまとめにし、「現在分詞の形容詞的用法、名詞的用法、副詞的用法」とします。(現在分詞の名詞的用法のことを、学校では「動名詞」と呼んでいると考えれば十分です)

※全ての用法とも、「①△の明示が原則、②○と△が一致している場合は△を省く」というルールが適用される点で同一です。

 - ① 形容詞的用法
 1. (○□△▽) I see you driving off. (私には見える、あなたが車で走り去るのを)～これが全ての分詞の基本形
 2. (with+現在分詞) I can't focus with your dog barking so loudly. (私は集中できない、あなたの犬がそんなに吠えていては)～こちらは高校レベルでしっかり学べば OK です
 - ② 名詞的用法～名詞は、文の主語、目的語、補語の三つになれます。(だから、必ずこれら三つを全て確認します)
 1. (分詞＝文の目的語) I love driving. (私は車を運転するのが好きだ) (厳密には、I love to drive は「これからドライブしたい」というアクションが含みとして想定されますが、実用上は大差ないというのがネイティブの意見です)
 2. (分詞＝文の補語) Seeing is believing. (見ることは信じることだ→百聞は一見にしかず)
 3. (分詞＝文の主語) Driving at night is fun. (夜に車を運転するのは楽しい。※ “To drive at night is fun.” は、間違いではありませんが、現実にはほとんど言いません)
 4. (仮主語 it + 現在分詞) It's fun driving at night. (楽しいです、夜に車を運転するのは。※こちらは、“It's fun to drive at night.” と実用上大差ありません)～高校レベルで学べば OK です
 - ③ 副詞的用法～分詞構文(高校レベルで学べば OK です)

【復習】～文法は、意味、形、働き(どんなときに使うか)の3つを押さえる

- 英文法は、全部で5段階からなっています。
 1. ○(主語)+□(動詞)+ピリオド
 2. □の操作(助動詞及び動詞の否定語に波線)
 3. ▽(準動詞)及び△(その意味上の主語)
 4. 複数の○□の接続
 5. より高度な表現
- 英文法の第1段階～動詞には be 動詞と一般動詞があるので注意しましょう。
- 英文法の第2段階には、4つの方法があります。これらは、自在に組み合わせて更に細かいニュアンスを出すこともできます。
 1. 文の種類: 平叙文(肯定文と否定文)、疑問文、命令文。(※be 動詞と一般動詞で、文の種類のかえ方が異なるので注意しましょう)
 2. 時制: 単純時制(現在形、過去形、未来形)と複合時制(進行形、完了形)があります。
 3. 助動詞: 助動詞とは、動詞の雰囲気より具体的に定める「動詞のパートナー」です。
 4. 態(能動態と受動態): 動詞の動作が主語から目的語に及ぶものを「能動態」、主語が動詞の動作の対象となるものを「受動態」といいます。
- 英文法の第3段階には、時制によって4種類があります。「△(動作主)が▽ (準動詞)する」という基本を押さえましょう。
 1. 未来分詞(△がこれから▽する) ※学校の「to 不定詞
 2. 現在分詞(△が▽している)
 3. 過去分詞(△が▽してしまった/された)
 4. 事実分詞(△が▽する) ※学校の「原形不定詞」

3-3～準動詞③「過去分詞」

1. 【復習】準動詞
 - (ア) 動詞が変化して、センテンスの中で動詞以外(名詞、形容詞、副詞)の役割を担うものを、準動詞(分詞)といいます。
 - (イ) 準動詞はもともと動詞なので、必ず「動作主」が必要です。そこで、準動詞を▽ (□の変化形なので)、その動作主を△でマーキングします。
 - (ウ) 準動詞を使うと、「ひとつのセンテンスに○と□は一つずつ」という英文法の第一段階のルールを守りながら、より複雑なことを言えるようになります。つまり、準動詞の基本形は、○□△▽であるということです。(これを徹底的に頭に入れてください)
 - (エ) 準動詞は四種類あり、これらは時制によって「形」が異なります。逆に言えば、時制以外はみんな同じです。
2. 過去分詞
 - (ア) 意味: (1)完了(～してしまった)を表す。(2)受け身(～された)を表す。
 - (イ) 形: 動詞の原形+語尾 ed (注意すべきものに、died, stopped など。また、過去分詞には動詞の不規則変化形が多数あります。なお、否定語 not の挿入は、過去分詞の前に)
 - (ウ) 働き(使い方)～過去分詞は、形容詞的用法を徹底的に押さえれば、ほぼ OK です。
 - ① 【復習】過去分詞が使われる、これまでに学んだケースをおさらいしましょう。
 1. (受動態: be 動詞+過去分詞) I was pushed by him. (私は押された。彼に)
 2. (完了形: have+過去分詞) I have finished the homework. (私は済んでいる【済んでしまって、今はもうない】。宿題が)
 - ② 形容詞的用法～基本形は○□△▽
 1. (名詞の前に過去分詞) fallen leaves (落ち葉), broken window (壊れた窓)
 2. (名詞の後に過去分詞) The language spoken in that area is Japanese. (その地域で話されている言語は日本語です)
 3. (使役動詞+過去分詞) I will have your car fixed. (あなたの車を修理しておきます)
 4. (知覚動詞+過去分詞) I see the mountaintop covered with snow. (その山の頂上が雪におおわれているのが見える)
 5. (with+過去分詞) She was calm and quiet with her eyes closed. (目を閉じ、彼女は平静だった)～高校レベルで学べば OK です
 6. (自動詞の補語) The door remained locked. (その扉はカギがかかったままだった)～高校レベルで学べば OK です
 7. (the+過去分詞=名詞) the wounded (負傷者) (※一般に、「the+形容詞」で「～な性質を備えた人」を表します。例えば、the rich で「金持ち」)～高校レベルで学べば OK です。
 - ③ 名詞的用法～未来分詞や現在分詞のような名詞的用法はありません
 - ④ 副詞的用法～分詞構文 (being の省略) ～高校レベルで学べば OK です

【復習】～文法は、意味、形、働き(どんなときに使うか)の3つを押さえる

- 英文法は、全部で5段階からなっています。
 1. ○(主語) + □(動詞) + ヒリオド
 2. □の操作(助動詞及び動詞の否定語に波線)
 3. ▽(準動詞) 及び △(その意味上の主語)
 4. 複数の○□の接続
 5. より高度な表現
- 英文法の第1段階～動詞には **be 動詞**と一般動詞があるので注意しましょう。
- 英文法の第2段階には、4つの方法があります。これらは、自在に組み合わせることで更に細かいニュアンスを出すこともできます。
 1. 文の種類: 平叙文(肯定文と否定文)、疑問文、命令文。(※be 動詞と一般動詞で、文の種類のかえ方が異なるので注意しましょう)
 2. 時制: 単純時制(現在形、過去形、未来形)と複合時制(進行形、完了形)があります。
 3. 助動詞: 助動詞とは、動詞の雰囲気より具体的に定める「動詞のパートナー」です。
 4. 態(能動態と受動態): 動詞の動作が主語から目的語に及ぶものを「能動態」、主語が動詞の動作の対象となるものを「受動態」といいます。
- 英文法の第3段階には、時制によって4種類があります。「△(動作主)が▽ (準動詞)する」という基本を押さえましょう。
 1. 未来分詞(△がこれから▽する) ※学校の「to 不定詞
 2. 現在分詞(△が▽している)
 3. 過去分詞(△が▽してしまった/された)
 4. 事実分詞(△が▽する) ※学校の「原形不定詞」

3-4～準動詞④「事実分詞」

1. 【復習】準動詞

- (ア) 動詞が変化して、センテンスの中で動詞以外(名詞、形容詞、副詞)の役割を担うものを、準動詞(分詞)といいます。
- (イ) 準動詞はもともと動詞なので、必ず「動作主」が必要です。そこで、準動詞を▽ (□の変化形なので)、その動作主を△でマーキングします。
- (ウ) 準動詞を使うと、「ひとつのセンテンスに○と□は一つずつ」という英文法の第一段階のルールを守りながら、より複雑なことを言えるようになります。つまり、準動詞の基本形は、○□△▽であるということです。(これを徹底的に頭に入れてください)
- (エ) 準動詞は四種類あり、これらは時制によって「形」が異なります。逆に言えば、時制以外はみんな同じです。

2. 事実分詞

- (ア) 意味: (1) 動作そのもの(～すること)を表す。～未来分詞、現在分詞、過去分詞と異なり、「時制(時間感覚)」がないのが特徴です。
- (イ) 形: 動詞の原形(※動作主の影響を一切受けず、常に原形です。例えば “I see Jack plays.” ではなく “I see Jack play.” となります)
- (ウ) 働き(使い方)～事実分詞は、形容詞的用法のみであり、名詞的用法、副詞的用法はありません。→それゆえ、「事実分詞＝無時制」という感覚をしっかりとつかみ、典型的な用法を押さえてしまえば、全ての分詞(準動詞)の中で最も簡単です。

① 形容詞的用法～基本形は○□△▽

1. (知覚動詞 + 事実分詞) I hear a baby cry. (私には、赤ん坊が泣くのが聞こえる)
 ※I hear a baby crying. (私には、赤ん坊が泣いているのが聞こえる)と区別しましょう。～現在分詞はその動作の継続が前提。
 ※事実分詞をとりやすい知覚動詞: see(見える)、hear(聞こえる)、watch(観る)、look at(見る)、listen to(聴く)、feel(感じる)、find(見つける)、notice(気づく)、observe(観察する)、perceive(知覚する)など
2. (使役動詞 + 事実分詞) I will have him call you back. (彼があなたに電話をかけ返すようにします→彼に電話をかけ返させます)
 ※事実分詞をとりやすい使役動詞: make(強制的にさせる)、have(させる)、let(させてやる)
 ※似たニュアンスの get(交渉や説得によって、するように仕向ける)は、事実分詞ではなく、未来分詞をとります。
 この違いは、使役動詞は「何をさせるか」にのみ関心があるのに対して、getは「(相手がまだしていないことを)いかにしてさせるか」に焦点が定まっていることから発しています。(詳しくは、高校レベルで学びます)
 I will get him to call you back. (彼があなたに電話をかけ返すように仕向けます)

② 慣用句～事実分詞の使用例と通常みなされているものに、had better があります。(他の慣用句は、高校レベルで学びます)

- (had better + 事実分詞)～した方がよい) You had better believe it. (それを信じた方がいいよ)～「さもないと～」という、かなり押しつけがましいニュアンスなので、注意が必要です。
- You had better not believe it. (それを信じない方がいいよ)
 ※マーキングは、高校レベルの仮定法がかかわってくるので、しなくてOKです。

- (エ) 注意点～事実分詞にはいくつか注意点がありますが、高校レベルで学べばOKです。

【復習】～文法は、意味、形、働き(どんなときに使うか)の3つを押さえる

- 英文法は、全部で5段階からなっています。
 1. ○(主語) + □(動詞) + ヒリオド
 2. □の操作(助動詞及び動詞の否定語に波線)
 3. ▽(準動詞) 及び △(その意味上の主語)
 4. 複数の○□の接続
 5. より高度な表現
- 英文法の第1段階～動詞には **be 動詞** と **一般動詞** があるので注意しましょう。
- 英文法の第2段階には、4つの方法(文の種類、時制、助動詞、態)があります。これらは、自在に組み合わせて更に細かいニュアンスを出すこともできます。

【復習】第3段階の全体像(準動詞のまとめ)

1. 準動詞

- (ア) 動詞が変化して、センテンスの中で動詞以外(名詞、形容詞、副詞)の役割を担うものを、**準動詞(分詞)**といいます。
- (イ) 準動詞はもとも動詞なので、必ず「**動作主**」が必要です。そこで、**準動詞を▽ (□の変化形なので)、その動作主を△でマーキング**します。
- (ウ) 準動詞を使うと、「ひとつのセンテンスに○と□は一つずつ」という英文法の第一段階のルールを守りながら、より複雑なことを言えるようになります。つまり、**準動詞の基本形は、○□△▽**であるということです。(これを徹底的に頭に入れてください)
- (エ) 準動詞は四種類あり、これらは**時制**によって「**形**」が異なります。逆に言えば、**時制以外**はみんな同じです。
- ① **未来分詞(△がこれから▽する)** ※学校では、未来分詞を「**to 不定詞**」と習います。
I want you to go. (私はあなたが行くことを欲する→私はあなたに行ってほしい)
 - ② **現在分詞(△が▽している)** ※学校では、現在分詞を、現在分詞と動名詞の二つに分けて習います。
I hear a baby crying. (私には赤ちゃんが泣いているのが聞こえる)
 - ③ **過去分詞(△が▽してしまった/された)**
I see the mountaintop covered with snow. (私にはその山の頂上が雪で覆われているのが見える)
 - ④ **事実分詞(△が▽する)** ※学校では、事実分詞を「**原形不定詞**」と習います。
I hear a baby cry. (私には赤ちゃんが泣くのが聞こえる)
- (オ) △と○が一致するときは、△は省略されます。(逆に言えば、一致しなければ、省略はできません)
- ① 例) I want to go. (私は行くことを欲する→私は行きたい)
- (カ) 今までに学んできた、様々な**時制**や**態**は、「□(動詞) + ▽(準動詞)」の**組合せ**として理解できます。それぞれの**準動詞の時制が□▽の部分の意味に反映されているのを確認**しましょう。
- ① **進行形 (be 動詞 + 現在分詞)** ≡ 「～している (現在分詞)」という状態だ (be 動詞) You are leaving. (あなたは立ち去ろうとしている)
 - ② **完了形 (have + 過去分詞)** ≡ 「～してしまった (過去分詞)」という経験を持っている (have) You have gone. (あなたは行ってしまつて、今ここにいない)
 - ③ **受動態 (be 動詞 + 過去分詞)** ≡ 「～された (過去分詞)」という状態だ (be 動詞) You are pushed. (あなたは押された[状態だ])